

茅科高原は、小津安二郎  
 監督がコンビを組むシナリ  
 オライター野田高梧と共に、  
 高原の生活を愉しみながら数々の名作を生み出  
 したゆかりの地です。小津監督が亡くなった今  
 でも、小津映画に対する評価はますます高まり、  
 世界の映画人に大きな影響を与え続けています。  
 毎年11月上旬にはこれを記念して、小津安二  
 郎記念・茅科高原映画祭を開催しています。



#### ご案内



#### 交通

- 列車利用 ○新宿ー(JR中央本線)ー茅野駅ーフル平  
○名古屋ー(JR中央西線)ー茅野駅ーフル平
- ※茅野駅よりバスにて約30分、フル平下車約1分
- 車 ○中央自動車道諏訪I.C.降り、ビーナスラインで約30分

#### 野田高梧と小津安二郎

1957年の「東京暮色」、1958年「彼岸花」、1959年には「お早よう」、「浮草」と、野田と共に茅科で脚本の構想を練り執筆するようになって、5作品目の1960年の作品「秋日和」を書き上げ、6月3日に茅科を離れて以来、12月28日野田夫妻と共に久方ぶりに茅科入りした。

小津安二郎が年末年始を茅科で過ごすのははじめてのことである。

次回作「小早川家の秋」の仕事を控えての事だが、のちに野田の語るところによると、小津の母あさ系が、前作「秋日和」の疲れと、正月の来客のために飲み過ぎる小津を気遣って、年末年始を茅科で過ごす野田夫妻にこっそりと、茅科へ連れて行ってくれるよう頼んだのだという。

野田と小津は脚本家と映画監督という間柄にとどまらず、まさに親友、盟友であった。

#### 小津安二郎プロフィール

1903年12月12日、東京深川(江東区)に生まれる。小学生の時に父の故郷・三重県松阪市に移る。伊勢市の宇治山田中学校卒業後、三重県飯南郡飯高町の尋常小学校で1年間代用教員を務めた後、帰京。

1923年撮影助手として松竹キネマ蒲田撮影所に入社。1927年時代劇「懺悔の刃」で監督デビュー。戦後は脚本家野田高梧と組み、「晩春」、「麦秋」、「東京物語」といった名作を次々に発表。『東京暮色』以降は茅科高原(長野県茅野市)に盟友、野田と共にこもって脚本を執筆し、晩年の名作を生み出す。

1963年12月12日、60歳の誕生日に逝去。

1957年の「東京暮色」から、1958年「彼岸花」、1959年「お早よう」、1959年「浮草」、1960年「秋日和」、1961年「小早川家の秋」、1962年「秋刀魚の味」までの晩年の全ての作品が茅科で執筆された。

小津安二郎監督ゆかりの

無藝荘

むげいそう

〈お問い合わせ〉

茅科観光協会

〒391-0301 長野県茅野市北山茅科4035  
 TEL:0266-67-2222 FAX:0266-67-4914  
<http://www.tateshina.ne.jp>

雲低く寝待月出でて、  
 遠望模糊、まことに佳境、  
 連日の俗腸を洗う。

小津安二郎監督ゆかりの

無藝荘

むげいそう



## 小津の散歩道



昭和二十九年夏、前年に『東京物語』を撮り終えた小津は、脚本家であり盟友の野田高梧に伴われ、初めて夢科高原の野田の山荘「雲呼荘」を訪れました。

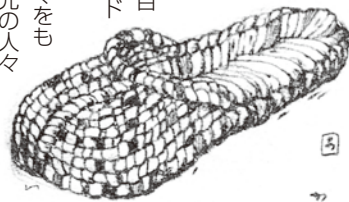
『夢科日記』(注)に、八月十八日、小津安二郎が最初に記した感想が「雲低く寝待月出でて、遠望模糊、まことに佳境、連日の俗腸を洗う」とあります。

夢科の自然、人情、旨い酒がすっかり気に入り、それまでの「茅ヶ崎館」から夢科に仕事場を移し「東京暮色」以降、没するまでの七作品全てのシナリオがここ夢科で書かれることとなります。一本シナリオが完成することに日本の酒の空瓶が並んだという有名なエピソードがのこされています。

高原での生活を愉しみ、酒を愛し、訪れる人々をもてなし、時には連れ立って散策をする。また、地元の人々とも気さくに付き合っていました。婚礼に祝いを贈ったり、小学校の運動会見物に出掛けたり、撮影所へ招待された人もいたそうです。そんな夢科での様子は、小津の日記などから克明に読み取ることが出来ます。

『雲呼荘』はすでに取り壊されて現存しませんが、小津が仕事場として、また東京から訪れる映画関係者などの接待の場所として使用した『無藝荘』が残っています。昭和初期に製糸業で名高い諏訪の片倉家が、地元の旧家を移築し別荘とした『片倉山荘』(木造平屋建て約百二十六平方メートル)を、昭和三十一年夢科に腰を据えシナリオを書き始めた小津が借り『無藝荘』と命名しました。夢科高原は小津映画の心のふるさとであり、多くの名作が生まれた土地です。

\*注 『夢科日記』—当時、野田高梧の山荘「雲呼荘」に備えられていた十八冊からなる日記で、来訪者にも書かせていた。当時の夢科の様子や小津と野田の生活が克明に記されている貴重な資料である。



小津安二郎

夢科の丸々たる貸し馬の腹吹抜けて秋の風吹く

小津安二郎

孫原亨氏所蔵



【無藝荘の囲炉裏—小津スケッチ帳より】  
両角昭雄氏所蔵



無藝荘



囲炉裏



台所



五右衛門風呂